

【統合による魅力ある学校づくりの取組モデル】

○小中一貫校の特色を活かし、地域とともにある学校づくりを推進した例

### 1. 市町村の概要

◆人口：119,554人（令和元年5月現在）

◆小学校：27校，児童数6,365人 ◆中学校：16校，生徒数2,992人

◆市町村全体の学校の統合・存続の状況

※学校数，児童生徒数は令和元年5月1日現在

- ・平成25年4月：北浦小学校宮野浦分校を，北浦小学校に統合
- ・平成26年4月：熊野江中学校，浦城中学校を，南浦中学校へ統合  
北方・城・美々地・三槿小学校，北方中学校を統合し，小中一貫校北方学園を開設  
黒岩小学校と黒岩中学校を統合し，小中一貫校黒岩小中学校を開設
- ・平成27年4月：上南方小学校と南方中学校を統合し，小中一貫校上南方小中学校を開設  
三川内小学校と三川内中学校を統合し，小中一貫校三川内小中学校を開設
- ・平成30年10月：離島に位置する島野浦小学校と島野浦中学校の統合検討を開始

### 2. 研究タイトルと研究課題

◆研究タイトル

小中一貫校ならではの取組を生かした「地域とともにある学校づくり」の推進に関する教育実践

◆研究課題

- (1) 統合後の学校が新たな区の地域コミュニティの核として高い教育機能を発揮するための方策
- (2) その他，統合を契機とした魅力的な学校づくりに関する先進的な取組

### 3. 調査研究対象校の状況

◆調査研究対象校

延岡市立北方学園（小中一貫校）

北方学園小学校（8学級〈特支2〉，143人）

北方学園中学校（5学級〈特支2〉，70人）

◆調査研究対象校を統合することとした背景・理由

本市は，平成18年に旧北方町と合併した。旧北方町に位置していた4小学校，1中学校も，年々在籍人数が減少傾向にあったため適正配置を検討することとした。

◆統合に至るまでの過程

- ・平成24年1月～6月：地域住民，PTA等を対象に学校再編に係る説明会を実施（各地区において計13回）
- ・平成24年7月：北方町地域協議会において再編に関する報告
- ・平成25年12月：「延岡市小中学校設置条例」の一部改正
- ・平成26年4月：小中一貫校として開校

◆統合による学校の教育環境の変化の状況

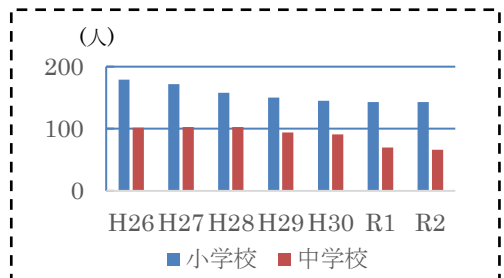
- ・小中教員の相互の乗り入れ授業が，実施可能になった。
- ・小中合同での児童会・生徒会活動，学校行事，異学年交流行事等が可能になった。
- ・児童生徒理解や家庭理解が，連携的に共有できた。
- ・小中9年間を通して，ふるさと学習を基軸とした系統的なキャリア教育が推進できるようになった。

◆調査研究対象校の位置



本校は，延岡市の西部，市街地から五ヶ瀬川に沿って車で20分（17km）の場所に位置している。旧美々地小からの距離は約15kmあり，学校区はかなり広域である。

◆対象校の児童生徒数の推移



## 4. 本調査研究において取り組んだ内容

### 1 小中一貫校の強みを生かした取組

(1) 小中相互の乗り入れ指導により、発展的な指導や習熟度別指導の中で、個に応じた指導を行った。また、児童生徒の多面的な評価につなげた。

【小→中】国・数（知的特支）週3～4時間 【中→小】理・外・音・体（5・6年中心）週3～6時間

(2) 施設一体型の利点を生かし、小中合同での児童会・生徒会活動や入学式や体育祭、文化祭（清流祭）等の学校行事を行った。また、日常的にも異学年で交流する機会を設けた。

(3) 小中の教職員間で、児童生徒理解、家庭理解を連携的に共有し、きめ細かな支援・指導に役立てた。

### 2 「地域とともにある学校づくり」を目指した取組

(1) 地域と学校の連携・協力体制の強化と協働文化の構築を目指した熟議を実施した。

ア 北方活性化プロジェクト会議（教職員・保護者・地域住民・行政機関、NPO 法人等）

【実施回数】H30: 3回, R1: 2回 【内容】・ビジョン共有（修正）・取組検討・評価

イ 北方活性化フォーラム in 北方学園（生徒・教職員・保護者・地域住民・行政機関、NPO 法人等）

【実施時期】R2. 1月 【内容】熟議「北方がなくならないために、私たちは何をするか」

(2) 学校の教育力を向上させるための工夫

ア 「地域の教育資源（ひと・もの・こと）を活用した教育活動の充実（発達の段階に応じた体験活動や出前授業、発信する活動等）

イ ふるさと学習を基軸としたキャリア教育の推進（干支の町フェスティバル、夏祭りなどへの参画を通して、より広い視野から地域の発展を考える活動等）



北方活性化プロジェクト会議（熟議）



北方活性化フォーラム（熟議・講話）



はげまし隊の学習支援



桃農園見学



干支の町フェスティバル参画

## 5. 研究の成果と今後の取組

「小中一貫教育」による教育プログラムの工夫や、「地域とともにある学校づくり」を目標に、地域や関係機関と連携・協働した取組を拡充したことにより、次のような成果が表れた。

- ・連携的な共通理解のもと小中の全職員が一体となって、子供や保護者と向き合ったことにより、不登校児童生徒の数が減少した。
- ・地域の教育資源（ひと・もの・こと）を活用した教育活動を系統的に展開したことにより、ふるさとへの愛着と貢献意欲の高揚につながり、地域行事への参加者も増加した。
- ・様々な立場の大人と関わる経験を重ねることにより、児童生徒が生き方を学び、将来の夢や目標をもつ機会となった。



今住んでいる地域の行事に参加していますか？

※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計  
(R元年度全国学力・学習状況調査より)

	小学6年	中学3年
本校	91.3	68.0
全国	68.0	50.6

(%)

## 6. 学校の統合に課題を抱える自治体へのメッセージ

「地域があり、子供がいて、そこに学校がある」ことを前提に、『地域の宝』である子供たちを育てることを目指し『地域とともにある学校づくり』を進めている。学校の統合にあたっては、統合される地域や学校に寄り添いながら、顔を合わせての丁寧な説明や双方向によるやり取りを行うことが重要だと考える。本事業において培った基盤を、今後のコミュニティ・スクールの推進に活かしていきたい。